最寄駅から徒歩１～２分と、アクセスに恵まれた場所にある村上内科医院

いで元気な人生を送り、元気な老後を過ごし、究極はピンピンコロリを目指すものです。実際、私もアンチエイジング医学を実践し、その恩恵を被っています。たとえば、以下のような。

①睡眠に関しては、以前は睡眠薬を飲まないと眠れないときもあったのですが、メラトニンを内服するようになり、ここ数年夢を見ることなく熟睡しています。

②ヒアルロン酸の膝の関節腔内注射をすることで、若いときから悩んでいた膝の痛みがなくなり、週２回のテニスを楽しんでいます。毎年秋の全日本医師テニス大会に参加することを目標にしています。

③５αリダクターゼ阻害剤を数年前より飲むようになり、髪の毛が増えてしっかりしてきて、ほげの心配をしなくなりました。また、男の人に多い前立腺がんの予防にもなると思っています。

④特に女性（私の妻も含め）では、見た目のアンチエイジングで、フィラーを注入することで額のしわが目立たなくなります。意外と効果も長く続き美白効果もありました。

⑤サプリメント（抗酸化物質が主）内服で、体調維持とあらゆる病気予防と良い点がたくさんあります。特にビタミンCは抗酸化物質の代表的なもので、私や私の家族、またアンチエイジングを研究している私の大学のスタッフも多数飲んでいます。ですから、私のまわりの人々はビタミンCの効果を実感しています。

医院のそばに駐車場も完備されている

――超高濃度ビタミンC点滴療法は、先生にとってどのような位置づけの治療法なのでしょうか？

村上　超高濃度ビタミンC点滴療法は、私にとってはアンチエイジング医学の延長であり、がんに対し副作用のない究極の治療であると思っています。

がんの患者さんはもちろん、一般の患者の方々にも、病気の治療、病気の予防、がん再発予防のためにアンチエイジングの専門医の立場から、ビタミンCを中心に抗酸化物質をいろいろな面で医療に応用しています。

点滴療法研究会には２００８年２月の第１回より参加し、本院は超高濃度ビタミンC点滴療法を京滋地区で最初に開始しました。点滴療法研究会は、会長の柳澤厚生先生がＡＣＡＭなど外国の学会にもどんどん参加され、世界の最先端の治療法を理解できる素晴らしい研究会です。

院内には、役に立つ情報が貼り出されている

アメリカを初め、世界の最先端の点滴療法をされている方々を柳澤会長が紹介され、毎年私たち会員に詳しく講演してくださいます。毎年開催されている何回かの最新の講演は素晴らしいもので、すぐがんの治療に結び付くものです。また、会員の超高濃度ビタミンC点滴療法のレベル向上のための認定医制度もあり、私は最初の認定医になりました。

私は、がん患者の方々に対し、自分の家族と思って接するようにしています。

医師から急にがんと言われても、どうしてよいかわからない人がほとんどです。医学的知識のない方がインターネットやがん関連の本など、いろいろ調べても正確に理解するのは大変なことです。

少しでも患者さんの家族になった気持ちで、がんの状態、体力、気力、免疫などすべてのことを考えたうえで、ベストの対応ができるようにと思っています。

超高濃度ビタミンC点滴療法が奏効した症例

――村上内科医院には、どのような患者さんが来院されるのでしょうか？

村上　いろいろながん患者さんが来られています。それも重症の方が多く、比較的若い方も多いことが意外です。

本院で印象的だった症例をご報告します。

①51歳・女性。両側の大きな乳がん、肝臓と全身の骨に転移があり余命半年と診断される。２００８年９月よりＶＣ点滴と抗がん剤にて３カ月後、全身のがんがＣＴ上消失。現在も元気に週１回通院されています。

②62歳・男性。２００９年直腸がんになり人工肛門の手術予定であったが拒否。４月よりＶＣ点滴、抗がん剤２クールと放射線治療で２０１０年２月治癒と診断され、現在仕事にゴルフに励んでおられます。

③59歳・男性。悪性リンパ腫で腹部に９㎝の腫瘍があり、２００７年より翌年末まで抗がん剤10クール自家移植、放射線治療をするも、腫瘍残存。２００９年１月よりＶＣ点滴を開始し、６月にＣＴ上腫瘍消失。翌年８月完治と診断。現在月１回ＶＣ点滴のみ。

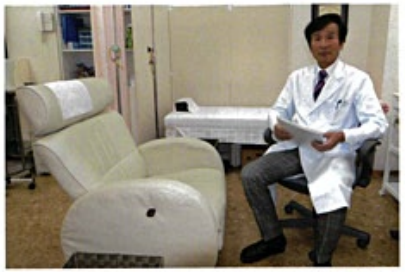
④32歳・女性。乳がんで左乳房全摘、リンパ節転移15個と多数。２００８年11月よりＶＣ点滴と抗がん剤で治療、２０１０年よりＶＣ点滴週１回と内分泌療法にて再発なく仕事に育児に励んでおられます。

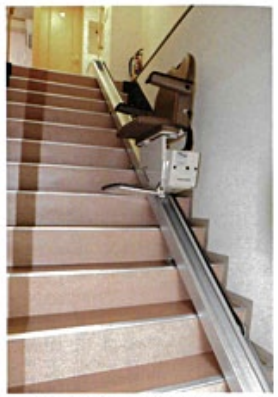
⑤59歳・女性。胃がん（印環細胞）で３分の２切除、抗がん剤治療でショックになり抗がん剤中止、２００８年12月よりＶＣ点滴開始し、再発なく仕事もされています。

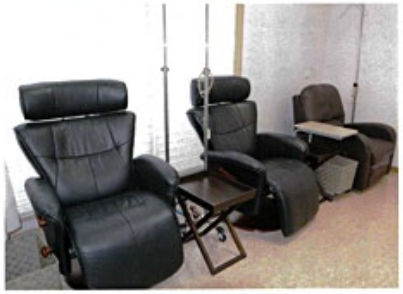
⑥28歳・男性。悪性リンパ腫で抗がん剤治療、９カ月後の２０１０年よりＶＣ点滴開始、現在ＶＣ点滴を10日に１回で、再発なく元気に仕事をされています。

⑦40歳・女性。膵臓がん。２０１０年手術、同11月よりＶＣ点滴と抗がん剤治療。現在再発なく、２週間に１回ＶＣ点滴で仕事に励んでおられます。

ＶＣ点滴で効果のあった人は他にも多数おられます。最初から重症の方もおられますが、ほとんどの方はＶＣ点滴をするうちに、ＱＯＬ（生活の質）は良くなられています。


診察の際の患者用の椅子。ゆったりとした気持ちになるよう配慮されている


２階への昇り降りには「椅子式階段昇降機」も使用できる


点滴療法は広いスペースで行われる

気力、体力、免疫力を向上させ、治癒力を増してがんを叩く

――先生が、お考えになる「あきらめないがん治療」とは、どのようなものでしょうか？

村上　がんの治療は、現在保険がきく治療が中心で、標準治療と言われています。標準治療には、①手術、②放射線治療、③抗がん剤治療、の３種類があります。

しかし、がんの標準治療だけでは限界があります。標準治療だけでがんが完全に治るとは、ほとんどの人は思っていません。ですから、患者さんのうちかなりの人がサプリメントなどの代替治療を自主的にしています。

アメリカでは標準治療が見直され、多額の国家予算で代替治療の研究が進められています。

現在、多くの病院でがんの患者さんに対して標準治療が行われていますが、標準治療での効果がなくなり、医師は選択する治療法に限界がくると、患者さんは治療より見放されて「がん難民」となり、希望がなくなってしまいます。ひどいときは、点滴以外何もしないで、ただ死を待つだけの状況におかれる人もいます。

しかし「統合医療」といって、がんに効果のある治療法はたくさんあります。

最先端がん治療として、保険のきく治療法として以下のようなものがあります。

①ラジオ波焼灼療法

肝臓がんでよく行われています。体に負担が少なく高齢の人でも可能です。他に肺がんや乳がん、腎がん（自費）などで効果があります。ラ